

# 阿波市 議会だより

## 第4号 [平成19年6月1日]

発行/阿波市議会 編集/議会広報特別委員会  
〒771-1792 徳島県阿波市阿波町東原173番地  
電話 0883-35-4118 FAX 0883-35-4150

### 平成十九年第一回(三月) 阿波市議会定例会の概要

三月定例会は、平成十九年二月二十八日から三月十九日まで、の会期二十日間で開かれました。  
開会日には、議長から諸般の報告、市長からの行政報告に続き、平成十九年度一般会計予算及び特別会計予算、条例の制定・一部改正、一部事務組合等の規約の変更、指定管理者の指定、市道の認定など、議案三十六件が提案され、市長から提案理由の説明がありました。  
代表・一般質問では、十二人が市政全般について考えを問われ、当初予算、入札制度、CATV、防災対策などが論議されました。  
閉会日には、常任委員会に付託した案件の審査報告、人事案件三件、追加議案一件、議員提案された「阿波市善入寺島内への大量未熟発酵肥料持ち込みに対して法的措置を求める意見書の提出」など三件について審査し、いずれも原案のとおり可決されました。

### 代表質問

月岡永治 議員  
(志政クラブ)



**問** 二〇〇七年度予算の中身と特色には小笠原力ラーが出現したのか。また、第一次総合計画の実施計画をどう反映したのか。  
**答** 基本計画や実施計画に基づいた社会基盤整備事業、少子高齢化対策、教育振興等の主要施策を遂行すべく、自主財源の積極的な確保と、物件費等の経常経費の削減目標を設定し徹底し

**問** 公募型指名競争入札等いくつかの方法について要綱、要領を定めており、それぞれの案件について担当部局、指名審査委員会で十分協議し実施したい。大型工事についても、最も適した入札方法を同委員会でも十分協議し執行したい。地場産業は市にとって重要な産業であり、地震等の緊急時の救援活動にも援助をいたたく企業なので、努めて育成を図っていく所存である。  
**答** 周辺対策事業について、平成十九年度に予定されている北原地区のコミセンの概要は、今現在、百三十平方メートル程の規模で計画しており、十九年度中に完成予定である。地元住民の声を十分聞きながら機能的なものにした。

**問** 周辺対策事業について、平成十九年度に予定されている北原地区のコミセンの概要は、今現在、百三十平方メートル程の規模で計画しており、十九年度中に完成予定である。地元住民の声を十分聞きながら機能的なものにした。  
**答** 財政は厳しいが、人の輝くまちづくりを投資し、最大限努力を重ねる市政に取り組みたい。

**問** 市政について、後半の総括をどう考えているか。  
**答** 財政は厳しいが、人の輝くまちづくりを投資し、最大限努力を重ねる市政に取り組みたい。

**問** 合併から二年間が経過して、平成十九年度からの行政組織の再編成について。  
**答** 総務部と企画部を統合して総務部、管財課と防災対策課を統合して防災対策課、情報ネットワーク課を情報課に課名を変更。市民部の税務課の中に、新しく家屋現況調査室を設けたい。職員配置は、室長一名、課員六名の計七名体制を考えている。保険年金課は国保医療課、長寿福祉課は障害福祉課、地域福祉課を社会福祉課にそれぞれ再編を考えている。

**問** 合併後、小笠原市政として二年が過ぎようとしているが、阿波市まちづくりの骨格をどのように考えているのか。例えば、行政組織のあり方として、旧町ごとの支所機能は残し地域に密着した住民サービスの提供、本庁は、総務、企画、議会等の基幹的な業務を行う等について。  
**答** 支所機能を生かすということも含めて、まちづくり構想については、今取りまとめ中であり、多くの人の意見や智慧を出し合い市民中心のまちづくりを進めたい。

**問** 阿波市まちづくりのための財源として有利で、重要な要素である合併特例事業の活用状況と今後の活用計画は。  
**答** 合併後十年間使える合併特例債の本市の計画枠は、約二百億円で認められている。合併時、大枠として考えていたのは、本庁舎四十億円、CATV四十億円、残りをまちづくりのために活用という計画であり、現在様々な意見を取り入れ、有効活用を図るべく検討している。

**問** 県道船戸切幡上板線は、旧阿波町から旧土成町の約二十キロの間に普通車が対向できない幅員が多数あり、災害時には通行不能と思われる。市には、主要な幹線道路として早急に対応を。なお、岩津橋北側のパイパス工事は休止期間が長すぎる。県に積極的に協議し、早く着工すべきである。今後の対策は。  
**答** この道路は、現在切幡工区で改良工事が進んでいる。災害対策としても重要路線と位置付け、改良工事を県に強く要望し

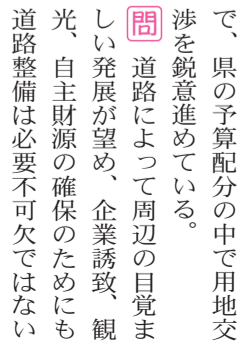
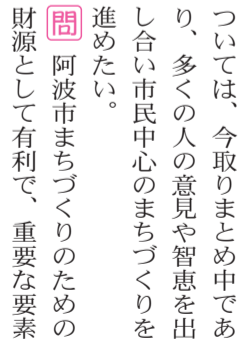
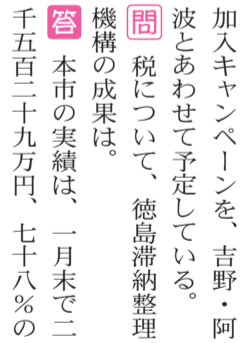
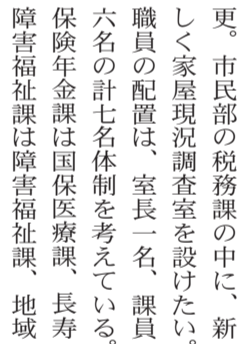
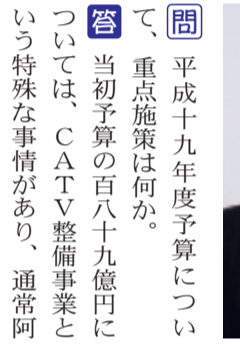
**問** 小笠原市長の二年間の成果について。  
**答** この間、議員各位、職員が一丸となり、阿波市をよくしようという機運がつくられてきた。行財政の集中改革プランをつくり、全職員対象の研修等も行った。難しかった国保税、水道料金等の一元化ができた。

**問** 市今後の大きなプロジェクト、課題は。  
**答** 市今後の大きなプロジェクト、課題は、

**問** 入札改善委員会の中で議論をしているところで、地域型一般競争入札、総合評価方式等について、阿波市内の業者育成のために前向きに検討を図っていき、機会均等を与える競争の場に参加させるべき問題について十分協議していきたい。  
**答** 学校に行きたくても行けない子ども達に学校に復帰できるように支援する場所である。トレン周辺はすばらしい環境であり、条件がそろっている。  
**問** 市の発展は人口増と考えるが、若者が定住できる専用住宅建設の考えはないか。  
**答** 若者定住の施策について総合的に検討したい。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

**問** 道路によって周辺の目覚ましい発展が望め、企業誘致、観光、自主財源の確保のためにも道路整備は必要不可欠ではないか。なお一層早い取り組みを。  
**答** 県道徳島吉野線から北の区間を計画路線に入れてもらうよう機会あるたびにお願しているが、さきの西条大橋の期成同盟会の総会でも、多くの委員からこの事業の促進について要望されており、できれば期成同盟会として国にも要望活動をしたと考えている。いずれにしても、一日も早くこの路線が整備されることを心から希望しているので協力をお願いしたい。



吉田正 議員  
(アス力21)

**問** 平成十九年度予算について、重点施策は何か。  
**答** 当初予算の百八十九億円については、CATV整備事業という特殊な事情があり、通常阿波市の規模としては百六十億円程度になると思う。

**問** 合併から二年間が経過して、平成十九年度からの行政組織の再編成について。  
**答** 総務部と企画部を統合して総務部、管財課と防災対策課を統合して防災対策課、情報ネットワーク課を情報課に課名を変更。市民部の税務課の中に、新しく家屋現況調査室を設けたい。職員配置は、室長一名、課員六名の計七名体制を考えている。保険年金課は国保医療課、長寿福祉課は障害福祉課、地域福祉課を社会福祉課にそれぞれ再編を考えている。

**問** 合併後、小笠原市政として二年が過ぎようとしているが、阿波市まちづくりの骨格をどのように考えているのか。例えば、行政組織のあり方として、旧町ごとの支所機能は残し地域に密着した住民サービスの提供、本庁は、総務、企画、議会等の基幹的な業務を行う等について。  
**答** 支所機能を生かすということも含めて、まちづくり構想については、今取りまとめ中であり、多くの人の意見や智慧を出し合い市民中心のまちづくりを進めたい。

**問** 阿波市まちづくりのための財源として有利で、重要な要素である合併特例事業の活用状況と今後の活用計画は。  
**答** 合併後十年間使える合併特例債の本市の計画枠は、約二百億円で認められている。合併時、大枠として考えていたのは、本庁舎四十億円、CATV四十億円、残りをまちづくりのために活用という計画であり、現在様々な意見を取り入れ、有効活用を図るべく検討している。

**問** 阿波町における納涼花火大会等、市内各地で実施のイベント支援について、平成十九年度予算にも配慮されているのか。  
**答** 財政厳しい中、前年比五%減ではあるが引き続き予算化している。市民の憩いの場となるよう活用をお願いしたい。

稲岡正一 議員  
(新政クラブ21)

**問** 平成十九年度事業市内CATVの三十一億円の主な配分は、土成・市場についても新規加入金を二万円とするのか。  
**答** 三十一億円の配分は、電送施設に十四億円、加入者宅の小口設備に三億円が主である。十九年度も十八年度同様に二万円の加入キャンペーンを、吉野・阿波とあわせて予定している。

**問** 税について、徳島滞納整理機構の成果は。  
**答** 本市の実績は、一月末で二千五百二十九万円、七十八%の徴収率になり、四百五十万円の負担に対して、この本税と延滞金等を合わせると三千六百六十五万円収納されており、多大な成果となっている。

**問** 市監査委員の増員についてどのような成果を期待しているのか。また、有資格者なのか。  
**答** 専門的知識を有する者の選任により、監査機能の充実を図る。予定者は税理士である。

**問** 適応指導教室とは、土成町のトレンに決定した理由は。  
**答** 学校に行きたくても行けない子ども達に学校に復帰できるように支援する場所である。トレン周辺はすばらしい環境であり、条件がそろっている。  
**問** 市の発展は人口増と考えるが、若者が定住できる専用住宅建設の考えはないか。  
**答** 若者定住の施策について総合的に検討したい。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

吉川精二 議員  
(飛翔)

**問** 合併後、小笠原市政として二年が過ぎようとしているが、阿波市まちづくりの骨格をどのように考えているのか。例えば、行政組織のあり方として、旧町ごとの支所機能は残し地域に密着した住民サービスの提供、本庁は、総務、企画、議会等の基幹的な業務を行う等について。  
**答** 支所機能を生かすということも含めて、まちづくり構想については、今取りまとめ中であり、多くの人の意見や智慧を出し合い市民中心のまちづくりを進めたい。

**問** 阿波市まちづくりのための財源として有利で、重要な要素である合併特例事業の活用状況と今後の活用計画は。  
**答** 合併後十年間使える合併特例債の本市の計画枠は、約二百億円で認められている。合併時、大枠として考えていたのは、本庁舎四十億円、CATV四十億円、残りをまちづくりのために活用という計画であり、現在様々な意見を取り入れ、有効活用を図るべく検討している。

**問** 阿波町における納涼花火大会等、市内各地で実施のイベント支援について、平成十九年度予算にも配慮されているのか。  
**答** 財政厳しい中、前年比五%減ではあるが引き続き予算化している。市民の憩いの場となるよう活用をお願いしたい。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

木村松雄 議員  
(志政クラブ)

**問** 平成十九年度事業市内CATVの三十一億円の主な配分は、土成・市場についても新規加入金を二万円とするのか。  
**答** 三十一億円の配分は、電送施設に十四億円、加入者宅の小口設備に三億円が主である。十九年度も十八年度同様に二万円の加入キャンペーンを、吉野・阿波とあわせて予定している。

**問** 税について、徳島滞納整理機構の成果は。  
**答** 本市の実績は、一月末で二千五百二十九万円、七十八%の徴収率になり、四百五十万円の負担に対して、この本税と延滞金等を合わせると三千六百六十五万円収納されており、多大な成果となっている。

**問** 市監査委員の増員についてどのような成果を期待しているのか。また、有資格者なのか。  
**答** 専門的知識を有する者の選任により、監査機能の充実を図る。予定者は税理士である。

**問** 適応指導教室とは、土成町のトレンに決定した理由は。  
**答** 学校に行きたくても行けない子ども達に学校に復帰できるように支援する場所である。トレン周辺はすばらしい環境であり、条件がそろっている。  
**問** 市の発展は人口増と考えるが、若者が定住できる専用住宅建設の考えはないか。  
**答** 若者定住の施策について総合的に検討したい。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

正本文男 議員  
(志政クラブ)

**問** 合併後、小笠原市政として二年が過ぎようとしているが、阿波市まちづくりの骨格をどのように考えているのか。例えば、行政組織のあり方として、旧町ごとの支所機能は残し地域に密着した住民サービスの提供、本庁は、総務、企画、議会等の基幹的な業務を行う等について。  
**答** 支所機能を生かすということも含めて、まちづくり構想については、今取りまとめ中であり、多くの人の意見や智慧を出し合い市民中心のまちづくりを進めたい。

**問** 阿波市まちづくりのための財源として有利で、重要な要素である合併特例事業の活用状況と今後の活用計画は。  
**答** 合併後十年間使える合併特例債の本市の計画枠は、約二百億円で認められている。合併時、大枠として考えていたのは、本庁舎四十億円、CATV四十億円、残りをまちづくりのために活用という計画であり、現在様々な意見を取り入れ、有効活用を図るべく検討している。

**問** 阿波町における納涼花火大会等、市内各地で実施のイベント支援について、平成十九年度予算にも配慮されているのか。  
**答** 財政厳しい中、前年比五%減ではあるが引き続き予算化している。市民の憩いの場となるよう活用をお願いしたい。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

**問** 西条大橋取り合い道路の進捗状況と今後の市の取り組みについて。  
**答** 西条大橋をメインとした大きな計画道路の中で、県道宮川内島島停車場線と県道鳴門池田線のバイパス約一キロについては、現在県において事業を推進している。この区間を含むバイパスについて阿波市東部の幹線道路ということで、早く国の交付金事業にのせて事業の進捗を図ってほしいと要望しているが、今現在は県単独事業ということで、県の予算配分の中で用地交渉を鋭意進めている。

阿部雅志 議員  
(飛翔)



**問** 火災による防災対策について、市内全域において、通報受信から消火開始までの所要時間の想定はどのようになっているか。

**答** 中消防署では、火災通報を受けた場合、市場町の大俣地区まで約八分、大影地区まで約十五分、吉野町の東端まで約八分で到着し消火活動が開始できる。西消防署では、阿波町の西端まで約十分で到着できる。

**問** 火災による防災をどのように考えているか。

**答** 初期消火に努め、水源の確保のため、今後は耐震化防火水槽の設置を進めていきたい。また、自主防災組織の育成・強化に向け、初期消火用の資機材の貸与を行っており、消火用ホースも含まれるので、活用されるよう啓発していきたい。

**問** 周辺対策事業に係る各旧町負担金及び起債に対する交付金の使途について。

**答** 土成地区は、平成十九年度からの三年間についても、自治会から意見を申請していたいており、それらの事業を進めたい。吉野地区は、旧町から持ち込みの七事業のうち実現可能な部分について協議を進めている。十九年度は、地区の周辺整備と、持ち込みの一件について調査研究の予算を組んでいる。



**問** 耐震調査、耐震補強の必要な施設(学校施設含む)をどのようにいつ頃完成させるのか。

**答** 補強工事には、学校施設等を含めれば莫大な経費が必要。耐震化問題について、教育施設の統廃合も視野に入れ、検討協議的な機関の設立も念頭に置く必要があると考える。

**問** 集会所に対するCATV事業の負担金、使用料の問題。

**答** 自治会の持つている、地域の住民を対象とした集会所である限り、公の施設と同様の扱いが適当であり、無料と考える。

**問** CATV事業の最終予算総額は。

**答** 今の予算上で、五十一億三千万円である。

**問** 支所機能に対する考え方。

**答** 事務的なものは本庁舎に吸収して、最終的に地区に必要なものだけにしたい。

**問** 合併特例債で基金造成をして、運用益を各種団体振興に充当すれば。

**答** 平成二十年度の運用益は、三百二十万円程度見込まれる。自治会振興、各種団体振興のため充当したい。

**問** 西条大橋の取り合い道路問題(排水用地について)。

**答** 県のお墨付きがあれば、土地開発公社をつくって、用地取得をしたいというところまで話をしている。



**問** 公共下水道事業は、計画から十四年経過し、事業認可から六年経っても事業の進展が見られないが、市として公共下水道に今後どの様に取り組むつもりか。認可区域の住民が合併浄化槽の補助金を受けられない状態が続いているがどの様に考えているのか。

**答** 下水道事業の検討委員会を立ち上げ、阿波市全体の汚水処理構想を策定し、公共下水に関する諸問題を含め平成十九年度

中に検討し結論を出していく。

**問** 福祉行政の一環として、土柱・金清、御所の温泉施設の入浴助成券の配布事業について、助成券の使用状況及び事業の継続性をどの様に考えているのか。

**答** 入浴助成券の配布方法は、郵送から申請方式に変更になった。利用も増え事業が定着したと思われる。財政課と協議しながら今後の事業を進めたい。

**問** 河川事業について、堆積物の処理、土捨場の増設、及び吉野川整備計画に対する市の取り組みについて。

**答** 河川事業は、県と市の協調関係で行われるが、残土処理は市としても仮置き場を増やすよう計画している。吉野川整備計画については、市は住民とともに参加し、無提地区の解消、善入寺島の整備、排水機場の整備等を強く要望していく。



**問** 農業委員の報酬は適正か。私は適正でないと思うが。

**答** 農業委員の報酬は、合併協で決まったもので、条例にも記載されており適正である。旧吉野町年額十五万六千円、旧土成町十四万六千四百円、旧市場町二十万七千九百円、旧阿波町二十万六千五百円であった。現在、阿波市の農業委員の報酬は、旧阿波町と同額である。

**問** 土柱休養村周辺の観光対策として、防犯灯の設置と温泉の燃料について。

**答** 土柱・金清温泉の燃料の節約対策として、地元チップの利用であるが、資源の活用では賛同する。もう少し勉強して考えていきたい。

土柱周辺の防犯灯設置であるが、土柱県立自然公園の裏側にあたると思うが、防犯灯は必要と思う。十分検討する。

**問** 休養村温泉の燃料代は年間どれくらいか。

**答** 七百万円程度、重油の消費量が十一キロリットル程である。チップ焼却炉について、武田議員の資料の中で、直接メーカに尋ねたところ、二年前に開発し全国で六基を製材業者等に納入しているが、温泉施設等にはまだ売り込み中とのことであった。私たちも十分検討したい。



**問** 若者の流出を防ぐ、雇用・勤労者対策について、人口減少が続く阿波市において、雇用の安定と雇用機会拡充の進め方は。

**答** 地場産業育成という視点からの公共事業の英断配分に加え、県道鳴門池田線、国道三二八号線についても、第三次産業の発展の企業立地も推進している。工業団地の残り三区画については、県当局また関係機関と鋭意努力を重ねていきたい。

**問** 新しい企業には地元の方の優先採用をお願いし、企業誘致に際しても、大阪等の県人会にも出席し、阿波市PRの中で、企業進出、また企業誘致の活動を展開しており、一件でも多くの企業が阿波市に来てもらえるよう進めている。

**答** 自主防災組織について、阿波市内の組織率は、現在、三百九十一の自治会のうち、百四十の自治会において結成され、率にして三十五・八%になっている。旧町単位では、吉野十八・三%、土成三十一・二%、市場二十六・六%、阿波五十七・五%という結果である。自治会の総会等の開催により、もう少し組織率が上がることを期待している。

## 活動状況報告

### … 地域活性化インターチェンジ、スマートインターチェンジを視察 …

平成19年2月9日、高速道路のインターチェンジについて、設置効果(市民の利便性、企業誘致、観光開発等)と、建設にともなう費用、管理費等を調査するため、香川県の三豊鳥坂IC(ハーフIC)と、東みよし町の吉野川サービスエリアに併設のスマートICを視察しました。

#### 三豊鳥坂インターチェンジの概要

- 全国初の地域活性化インターチェンジとして平成18年3月24日供用開始
- 善通寺ICからさめぎ豊中ICの間(14.6km)に設置した高松方面へのハーフIC
- 三豊市は、平成18年1月に7町が合併。人口約71,000人、面積222km<sup>2</sup>
- 取り付け道路は、一般国道11号線に接続
- 事業開始(IC工事発注)：平成16年11月26日 ■ 総事業費：45億円

#### 吉野川スマートインターチェンジの概要

- 平成16年10月31日から社会実験を開始し、平成18年10月1日から本格導入
- 美馬ICから井川池田ICの間(21.1km)の吉野川ハイウェイオアシスに設置
- 利用時間：午前6時から午後10時まで
- 利用可能車両：ETC車載器を搭載した全長12m以内の自動車等
- 自治体独自のETC車載器購入助成等、地元として利用促進に積極的に協力している



三豊鳥坂インターチェンジ

### … 鳴門市において保育所の民営化についての研修、堀江保育所を視察 …

平成19年2月9日の午後、鳴門市において保育所の民営化についての研修を受け、その後、堀江保育所の視察を行いました。

#### 鳴門市における保育所民営化の状況

鳴門市には、平成15年には、公立11カ所と私立12カ所の保育所があったが、その後3年間かけ民営化について調査検討し、1カ所を廃止し、2カ所を民間に移管した。平成18年度には、公立8カ所、私立14カ所となっている。

民営化の調整は、行政、議会の主導ではなく、市民、保護者、民間、公立保育所、有識者等を中心とした協議において行った。



すくすく保育園(旧堀江保育所)

#### 議会広報特別委員会からのお知らせ

今回の議会だよりから、A3版両面印刷で一枚のスタイルにし、「広報阿波」の折り込みとして同時に配布するようにいたしました。これにより、印刷製本及び配布にかかる経費が約五十%軽減できました。また、阿波市のホームページでも、議会情報として、定例会の日程、会議録等がご覧になれますので併せてご利用ください。